特別な支援を要する児童・生徒に対する道徳教育

～通常の学級における指導の在り方：理論と実践～

聖徳大学
名誉教授　吉本恒幸

National Institute for
School Teachers
and Staff Development

独立行政法人教職員支援機構

目次

1　はじめに：問題の所在と基本的な考え方
2　ユニバーサルデザインの視点に基づく
　　環境等への配慮
3　学習時での困難さに応じた具体的な配慮
4　道徳科授業における支援と実践例
5　おわりに：新たな学習指導案の提案

1　はじめに：問題の所在と基本的な考え方

支援を要する子供の様子（道徳科の授業）

話し合いに参加しない子

遊びに夢中になっている子

1　はじめに：問題の所在と基本的な考え方

重要！最新の調査結果から

通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査結果について

◆文部科学省有識者会議報告〔令和４年１２月１３日〕

〈小学校・中学校〉

・学習面又は行動面で著しい困難を示す　８.８％(６.５％)

・学習面で著しい困難を示す６.５％（４.５％）

※（ ）は平成２４年度調査結果

◎どの学級にも発達障害の傾向のある児童生徒が複数在籍している。

1　はじめに：問題の所在と基本的な考え方

令和の日本型学校教育

個別最適な学び

指導の個別化　学習の個性化

- 個に応じた指導の充実
- GIGAスクール構想による ICT環境の活用
- 学習履歴のデータ活用

協働的な学び

主体的・対話的な学びの実現

- 探究的な学習や体験活動を通じた協働
- 一人一人のよい点や可能性を生かすことで異なる考え方を組み合わせ、よりよい学びを生み出す。

特別支援教育の対象となる支援を要する子供においても求められる

1　はじめに：問題の所在と基本的な考え方

発達障害に関する名称は関係機関によって多様

■広汎性発達障害
（自閉スペクトラム症：アスペルガー症候群を含む）

【一般的特性】

○相手の感情や状況が推測できない。
○目の前にない物を考える、実際にないことを考えることが苦手。
○思ったことをストレートに言葉に出す。人の話を聞かない。
○相手の表情や態度などよりも、文字や図形、物の方に関心が強い。
○見通しの立たない状況では不安が強いが、見通しが立つ時はきっちりしている。
○大勢の人がいる所や気温の変化などの感覚刺激への敏感さで苦労しているが、それが芸術的な才能につながることもある。

参考：「精神・発達障害しごとサポーター養成講座」（厚生労働省）

1　はじめに：問題の所在と基本的な考え方

■学習障害（局限性学習症）

【一般的特性】

○「話す」「理解」は普通にできるのに、「読む」「書く」「計算する」ことが、努力しているのに極端に苦手である。

■注意欠陥多動性障害（注意欠如・多動性障害）

【一般的特性】

○忘れ物が多く、物を失くしやすい。片付けが苦手である。

○気が散りやすく、集中力が続かない。

○興味のあることに対しては次々と関心を持ち、周囲のペースよりもエネルギッシュに様々なことに取り組むことが多い。

1　はじめに：問題の所在と基本的な考え方

通常の学級に在籍する発達障害等のある子供たち

自閉症、ＬＤ（学習障害）、ADHD（注意欠陥多動性障害） 等

※知的発達に遅れはないが、学習や生活に困難さがある。

（小学校学習指導要領解説：総則編Ｐ１０６）

【基本的な考え方】

障害が診断されている場合であっても、「障害名」から安易に子供を見ることは避ける。あくまでも子供が示す「困難さの状態」を捉え、その子供に合った具体的な配慮や手立てを講じていく。

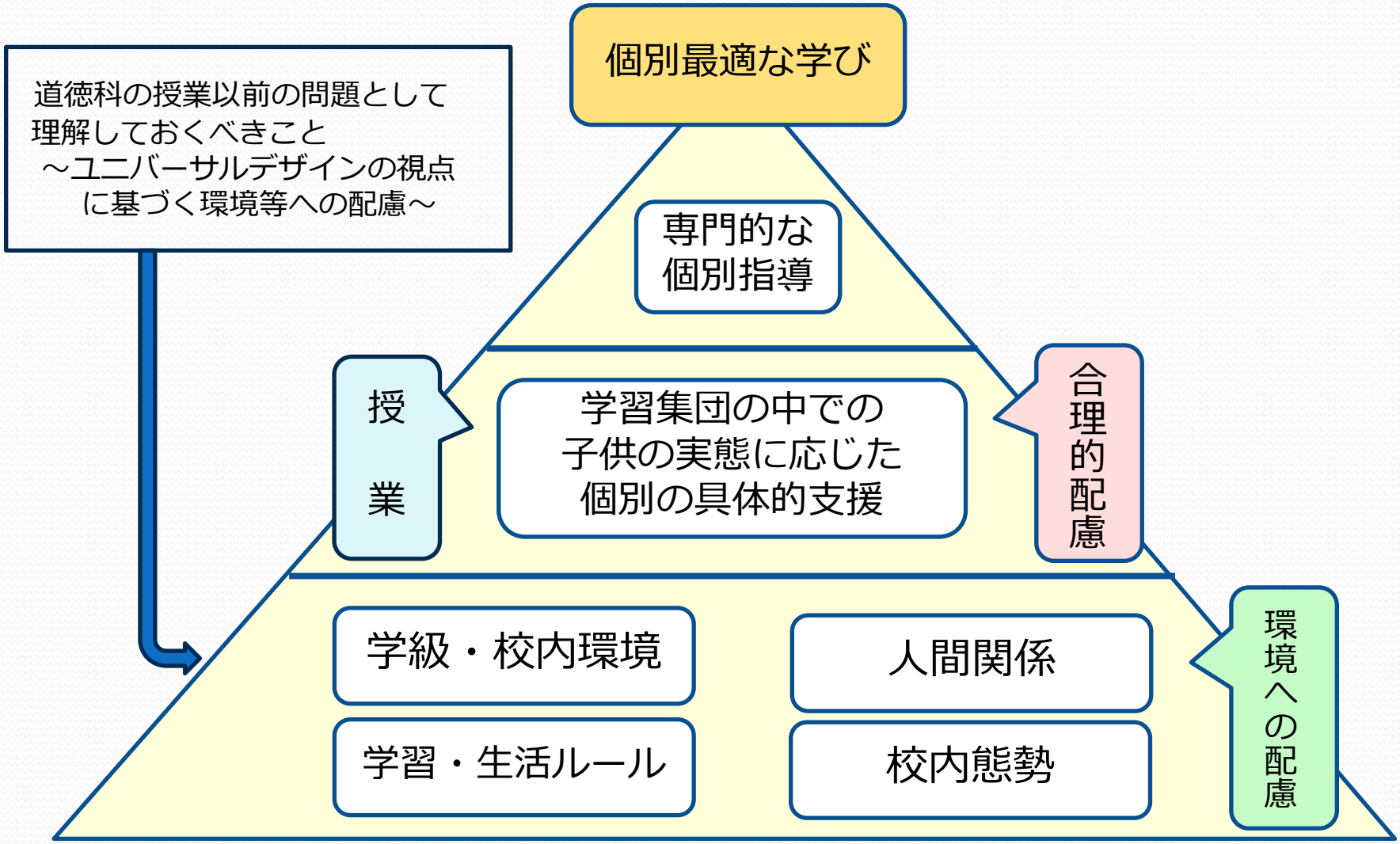
ユニバーサルデザイン ＋ 個別の具体的な支援

ユニバーサルデザインの視点に基づく環境等への配慮

～学級担任が行う配慮を中心に～

2　ユニバーサルデザインの視点に基づく環境等への配慮

支援を要する子供が安心して学ぶためには



2　ユニバーサルデザインの視点に基づく環境等への配慮

環境への配慮～教室環境～

【教室前面の在り方】・・視覚刺激への配慮

・教室前面に学級のめあて・スローガンなどを飾らない。

※教育目標のみにする。

・教師の事務棚は中身が隠せるようにカーテンで覆う。

・事務机の上は絶えず整理整頓する。

※場合によっては教室後方に置く。

・黒板下には定規や表、学級会ノートなどを下げない。

・掲示板が前面にある場合、学習時では必要に応じて
カーテンで隠す。

口を使った式
みかん
300gの入れ物
みかんの重さは？
900g

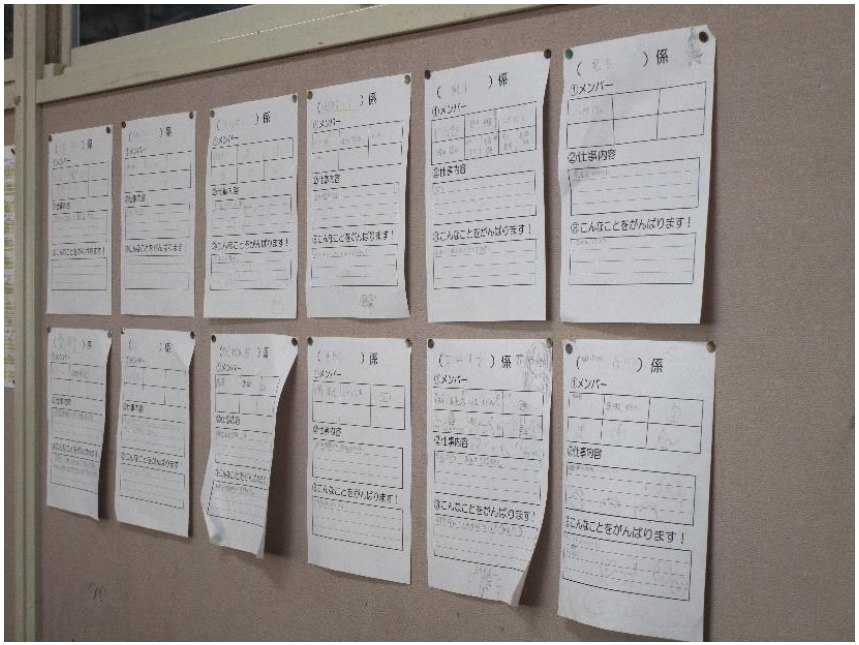
4年2組★学級目標
一明るく元気で
ハッピーな仲良く
笑顔いっぱいなクラス
いつも楽しく元気に
助け合い、メリハリ
がある最後まで
がんばろクラス

2がつ 4にち 土ようび
だい二十一かい
空色のじてん車
いのちについて考えましょう。
給食メニュー

2　ユニバーサルデザインの視点に基づく環境等への配慮

【掲示の在り方】

・掲示内容のカテゴリーごとに用紙の大きさを揃え、台紙に貼り、統一した字体で標題を付ける。
・台紙の色はカテゴリーごとに同じにし、その他の台紙も色合いは同系色を選び刺激を大きくしない。
・掲示物の上下・左右は等間隔に揃える。
・台紙は四隅を留める。
・図画は台紙に貼り、画鋲などで作品を傷付けない。
・子どもが書いたものに誤字がないようにする。
　※放置は人権問題になる。
・個人情報などのプライバシーに配慮する。



誤字がそのまま
にされている

2　ユニバーサルデザインの視点に基づく環境等への配慮

【教室後方のロッカーの在り方】

・ロッカーの上を棚として使う場合、学習ノート、水筒、図書、飼育用具などは特定の入れ物に入れ、揃えて置く。

・鞄は金属部分が奥になるようにしまい、学習用具がはみ出ないようにする。※金属の反射を避ける。

【学習机と椅子の在り方】・・聴覚刺激への配慮

・耳栓、ヘッドホンが必要な子供には認める。

・机と椅子の脚部にフェルトやテニスボールを付ける。

※子供のアレルギーの有無を確かめる。

【掃除用具入れの在り方】

・用具と掛ける場所には同一の番号を付け、整頓を助ける。

※当番表により、子供の番号と用具のマッチングを図る。

・教室と廊下を分担する場合は用具に色テープを貼る。

発達障害の可能性のある子供は、他の人からすれば大したことと思わないことでもこだわりを持つことが多いのです。
そうした特性を糧として、安心できる環境を整えていくことは学級・学校全体にとっても有益であると捉えたいものです。

2　ユニバーサルデザインの視点に基づく環境等への配慮

環境への配慮～人間関係～

【当該の子供と教師との関係】

・発達障害の子供と出会うと「面倒だ」「迷惑だ」「家庭のせいだ」「医療に任せたい」などという思いは、担任をしていると抱くかもしれない。使命感があり真剣に立ち向かおうとする教師ほど、効果が出ないと焦りが出てきて、「早く、どうにかしよう」と考えがちになる。しかし、焦りは禁物。

・ゆったりと構え、その子供と出会う数年間を愛情を傾けて、丁寧に子供と接するように努めていきたい。

・言い方、言葉遣いが強くならないように注意する。

※二次障害の発生を防ぐ。

2　ユニバーサルデザインの視点に基づく環境等への配慮

- 子供に「これから～する」などの大きな目標を考えさせても効果は期待できない。問えば、「みんなと仲よくする」「友達の邪魔をしない」と言ってくれるが、それができないから彼らは困っている。「約束したのに破ったね」と問い詰めると自尊心が傷付き、ますます不適応な行動を示す。
- 「どうしたら出来るようになるか」の方策を小さなステップでもいいので教師と話し合いながら見つけて、チャレンジしていくように促す。できたら思いきり褒める。出来なかったら、別のチャレンジを模索する。
- どの子供にも良い点はある。それを見つけたら、本人だけでなく友達にも知らせて褒める。

この子は必ず成長していく、と信じること。

2　ユニバーサルデザインの視点に基づく環境等への配慮

【周りの子供たちと教師との関係】

- 当該の子供の行動で容認してはならないことははっきりと「ダメです」と意思表示する。周りの子供たちはその時の教師の対応をしっかり見ている。教師の判断基準が不明確であったり、ズレたりしていくと子供たちからの信頼を失うことにもなる。
- 「Aさんだけズルい」「不公平だ」などの声が出てくる場合がある。こういう言葉を無視すると学級の荒れにつながる。どうしてそう思うのかを真剣に聞き、気持ちを受け止めることは必要。その後に、なぜ教師がそのような対応をとっているのかを説明する。

2 ユニバーサルデザインの視点に基づく環境等への配慮

環境への配慮～学習・生活のルール～

〈基本的な考え方〉

・発達障害の傾向のある子供には、抽象的な指示は伝わりにくい。「いつ、どこで、何を、どのような手順でするか」が分かるようなシステム化を図ることが効果的である。

・担任が変わるたびに新しいやり方が求められることは苦痛であったり、定着まで時間がかかったりすることがある。

・全学年統一したルールを決め、教員間で共通理解を図り、共通実践することは子供の助けになる。

2　ユニバーサルデザインの視点に基づく環境等への配慮

【学習のルール】

・発言時には、挙手して「ハイ」と言うのか、立って椅子を入れてから発言するのかなどを決める。

・意見に対する　「賛成＝グー」　「反対＝チョキ」　「不明＝パー」 などのハンドサインなどは統一したい。

・挙手の際に何度も「ハイ、ハイ・・」と声を出させたり、即時に「同じです」「いいです」を言わせたり、拍手したりすることは、音への刺激や同調圧力をかける可能性がある。考える時間を与えたのち、「意見のある人は聞かせてください」と指示し、黙って挙手を求めることは効果的である。

・学習用具の置き方を絵や写真で示すこともよい。

2　ユニバーサルデザインの視点に基づく環境等への配慮

【生活のルール】

・掃除活動、給食の時にトラブルが起きやすい。

　何を、どのように行うか

　何を、どこに置くか　などを

写真、絵、図、言葉で可視化しておくと効果的である。

参考：東京都小平市立鈴木小学校

きょうしつそうじのながれ

① まどを あける

② つくえと　いすを　もってはこぶ
※いすはつくえの上に　あげない

③ ほうきで　はく　・　ごみをとる

いすがおちる
とあぶないよ

④ ゆかを　<u>からぶき</u>する
（とくに　よごれたときだけ　<u>水ぶき</u>）

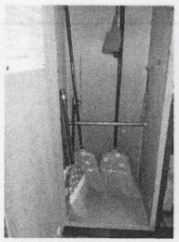
⑤ つくえと　いすを　もってはこぶ

⑥ のこり半分を　ほうきで　はく
ごみをとる

ゆかにつけて　はく

⑦ ゆかを　<u>からぶき</u>する
（黒板をきれいにする，つくえをふく）

⑧ つくえと　いすを　もってはこぶ



⑨ まどを　しめる

しまいかた　用具入れに　かける

そうじのやくそく

ろうか

○ほうきではいたあと，
かたくしぼったぞうきんで
<u>水ぶき</u>

げんかん

○あつめたすなは
外の決められた場所に　すてる

○げたばこは　とどくところだけ　ふく
<u>（げたばこには　のらない）</u>

体育館

○モップをかける
モップのほこりをおとす
ごみをほうきで取る

理科室

○T（ティー）ぼうきで　ゆかをはく

ガラスにちゅうい！

じゅんびのやくそく

●しょっきは，やさしく，ていねいにつかいましょう。

●ワゴンをはこぶときは，ぜったいにスピードを出さないこと。

〈はいぜんのしかた〉

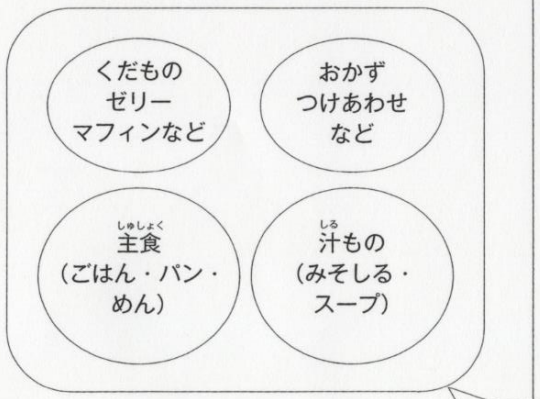
①おぼんは，りょうてで，まんなかをもちましょう。

②おさらは，おぼんのまんなかにおくようにしましょう。

とうばんさんは，もりつけたらやさしくおぼんにおいてあげましょう。

ただしいもりつけかた

おぼんはしっかりもちましょう！



おぼんのうえに
ぎゅうにゅうをのせ
てはいぜんしない

かたづけかたのやくそく

のこったたべもの

★のこったたべものは，パンはパンのバットへ，スープはスープのしょっかんへと，それぞれはいっていたいれものへもどす。
★のこったたべものや，くだもののかわなどと，ビニールてぶくろ・アルミホイル・かみナフキン・おたま・しゃもじ・トングはいっしょにしない。

しょっき・おぼん

★しょっきはおなじ大きさごとにかさねる。
かごのたかさよりたかくつまない。

ここまでで
ストップ！

スプーン・フォーク・おはし

★スプーン・おはしは，むきをそろえていれる。
★フォークはむきをそろえてつるす。
★とめがねをしっかりとめる。
★とめがねをしょっきかごにつけない。

ぎゅうにゅう

★ぎゅうにゅうびんは，きちんとたてむきにいれる。左か右につめていれる。
★キャップとブル（ひっぱってあけるところ）は，バケツにまとめていれる。
★のこしてしまったらキャップをしめてかえす。からびんにはふたをしない。

のこしてしまったらキャップをしめてかえしましょう

からびんにはふたをしないでね！

おたま・ビニールてぶくろ・アルミカップなど

★しゃもじ・おたま・トングは，からになったしょっかん・ボール・バットなどにまとめていれる。
★からになったしょっかんがないばあい，ワゴンにのせてかえす。
★ビニールてぶくろは，ワゴンのうえにおく。
★アルミカップは，たたむ。
のこしてしまったら，カップから出す。

アルミカップをたたんだもの

のこしてしまったら，なかみはカップからだしてください

★プラスチックカップ（ゼリー・ヨーグルトなど）は，かさねる。

かさねましょう！

紙パック・ジョア

★紙パックは，ストローをいれて，たたんでビニールぶくろにいれる。
★ジョアは，ストローをいれて，ビニールぶくろにいれる。

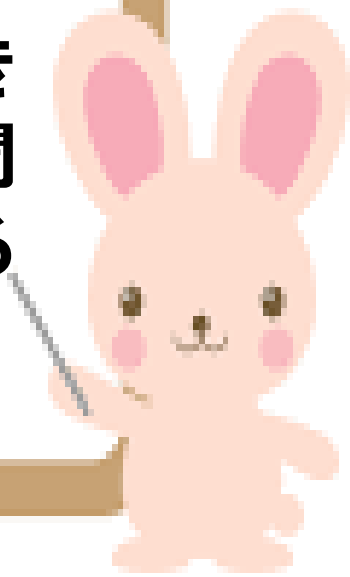
おそくにかたづけにきたとき

★おなじおさらどうしをかさねて，おぼんもかさねて，かたづける。
★たべのこしは，はいっていたしょっかんにもどす。

2　ユニバーサルデザインの視点に基づく環境等への配慮

**　担任の先生がお困りなのはよく分かります。でも、実は子供が一番困っているのです。いつも注意され、叱られ、自尊感情をなくしているかもしれません。**

**　障害のある子供に限らず、子供は「この人は自分に心を寄せてくれる人かどうか」を敏感に感じ取ります。子供を突き放したりせずに、どうしてほしいかを聞き取り、共によりよい手立てを見つけるように努めていきましょう。**



学習時での困難さに応じた

具体的な配慮

～各教科等の学習全般に関わること～

3　学習時での困難さに応じた具体的な配慮

物事へのこだわりが強く、学習の切り替えが困難な場合

○学習の流れをカードにして掲示するなど可視化する。
○今取り組んでいる活動に順次マークを付けていく。
○時間の見通しを示す。タイマーなどで残りの時間を提示する。

教材を目で追いながら読み進めることが困難な場合

○文を指で押さえながら読むことを促す。
○教材を語のまとまりや区切りが分かるように分かち書きしたものに書き直して与える。

話合いで思いつくままに発言するなどして友達の意見を受け止めることが困難な場合

○話合いの手順をルール化する。それを掲示し、適宜、指し示す。
○赤玉など小道具を用意し、それを持った者が発言することにする。
○友達の発言内容をメモするよう促す。

3　学習時での困難さに応じた具体的な配慮

登場人物の心情を理解することが困難な場合

○臨場感のある場面絵を提示し、人物に吹き出しを付ける。
○役割を交代して劇化したり、場面を動作化したりする活動を行う。

登場人物の心情を言葉などで表現することが困難な場合

○ ICT機器を活用して、心情を表す顔マークなどを指すように促す。

人前で話すことに不安を抱いたり、書いたものを読んだりすることが困難な場合

○本人の承諾を得て教師が代読する。
○短い発言でも称賛する。
○ ICT機器を活用して、子供が書いたものを提示する。

3　学習時での困難さに応じた具体的な配慮

発言は意欲的にするが、考えや意見をまとめることが困難な場合

○「第一」などの順序を表す言葉カードを持って話すよう指示する。
○話したい内容をメモなどにして書いてから発表するよう促す。
○言いたいことの結論を先に言うように指示する。
○考える項目を整理して提示しておく。

ワークシートなどに文章を書くことが困難な場合

○口頭で伝えることを認める。
○ICT機器を活用してサンプル文章を表すなど代替手段を与える。

教材の漢字を読むことが困難な場合

○事前に教材の漢字にルビを付けておく。

感情をコントロールすることが困難な場合

○自分の感情の状態を表す数字や記号などを教師に提示するよう促す。
○一時、クールダウンする場所に移動するよう指示する。

3　学習時での困難さに応じた具体的な配慮

その他：発達障害の可能性のある子供への配慮

【教師の話し方】
短い説明、簡潔で具体的な指示を心掛ける。
※何度も同じことを繰り返さない。
※「よく見て」「きちんと聞いて」などの曖昧な言葉は避ける。

【チョークの色】
男子１/２０　女子１/５００ に色覚異常があるとされている。

【学習態度のモデルの活用】
「○○さんは友達の話をよく聞いていたから、違いが分かったんだね。」と手本となる姿を適宜示す。

3　学習時での困難さに応じた具体的な配慮

【話合い】

発達障害の傾向のある子供には、ペアの方が効果的と言われている。

・話す相手が決まっている。

・聞き手の反応が分かりやすい。

【時計】

時間はデジタルでの数字の変化では感覚的に捉えにくい。

経過時間、残り時間が量的にわかるものを活用する。

普通の時計の場合は、長針が指す位置に目印を付ける。

3　学習時での困難さに応じた具体的な配慮

【ヒントカード】

思考や話合いを助けるために言葉や絵などをカードにし、
黒板に掲示したり、当該の子供の机上に置いたりする。

・何を考えるのか　　・何を話し合うのか
・何を調べるのか　　・何を行うのか

※大きめの付箋に書いたものを当該の子供に渡すことでもよい。

【お助けカード】

自分の気持ちを教師に伝える手立として事前に与えておく。
色だけのカードでもよい。

※赤カード・・教室から出たい。⇒職員室に行くことを約束。
　職員室にいる教員が個別に対応。⇒落ち着いたら戻る。

道徳科授業における支援と実践例

～ユニバーサルデザイン+個別の配慮～

道徳科の特質（道徳科の目標に反映）

道徳科の特質は、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の要として、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を（広い視野から）多面的・多角的に考え、自己（人間として）の生き方についての考え（自覚）を深める学習を通して道徳性を養うことである。

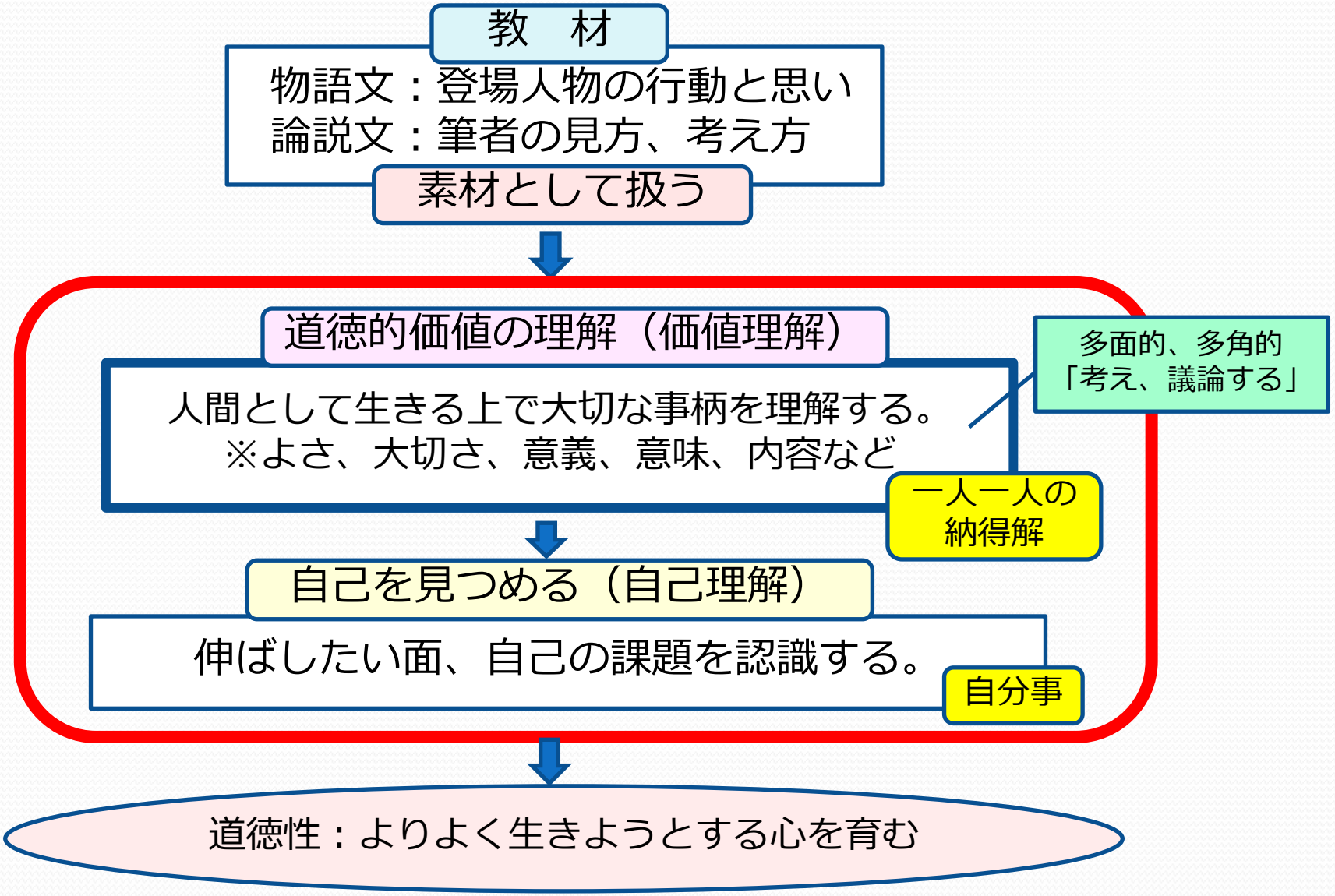
心の内なる力
（内面的資質）

（ ）中学校

【小：解説ｐ89、中：解説ｐ88 】

4　道徳科授業における支援と実践例

道徳科の学習のポイント



4　道徳科授業における支援と実践例

道徳科の特質を踏まえた学習指導過程

導入

主題に対する興味・関心を高める　　動機付けを図る

展開

価値理解

教材によって道徳的価値の理解を図る

他者理解

人間理解

道徳的価値の意味や大切さを理解する

考え、議論する道徳＝道徳的価値についての「深い学び」

自己理解

道徳的価値を自分のこととして捉える

これまでの自分の状況を見つめ、課題を培う

自己との対話を多様にする＝自分についての「深い学び」

終末

思いを温めたり
考えをまとめる

自己（人間）の生き方を考える

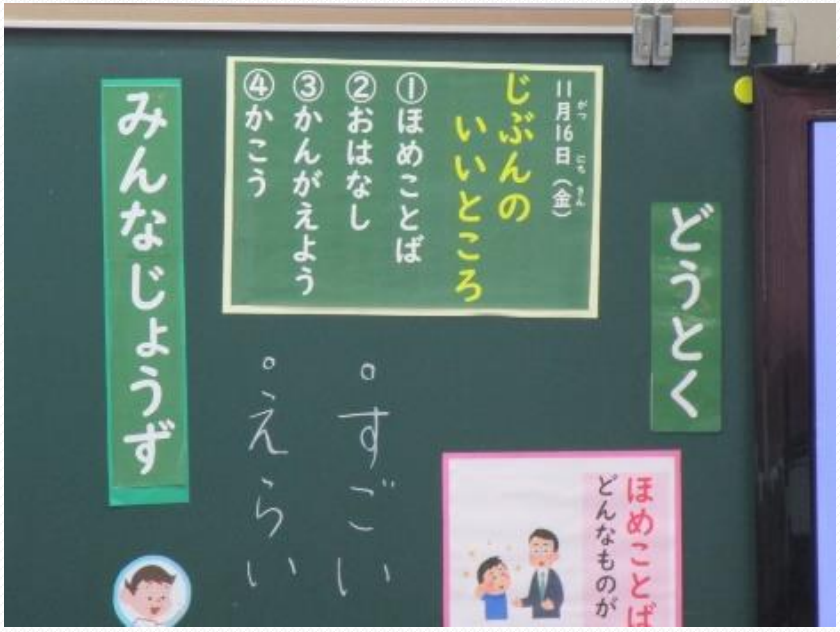
4　道徳科授業における支援と実践例

道徳科授業での具体的な支援の例

【授業の開始時】

・授業の流れを説明し、予定される活動内容をカードに書くなどして提示する。

※該当の活動の場面に入るときは印などを付ける。



導入の仕方

ア 導入の工夫
導入は、主題に対する興味や関心を高め、ねらいの根底にある道徳的価値の理解を基に自己を見つめる動機付けを図る段階であると言われる。　【小：解説p８２、中：解説p８１】

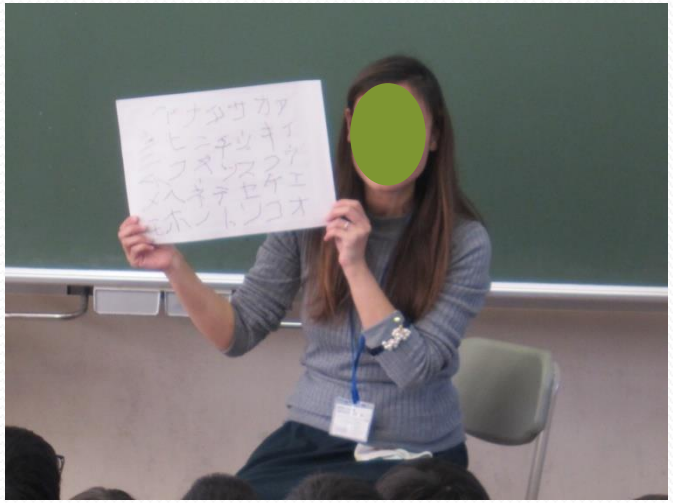
◆ねらいとする道徳的価値に興味をもつ。
※価値への方向付け
～について、話し合いましょう。

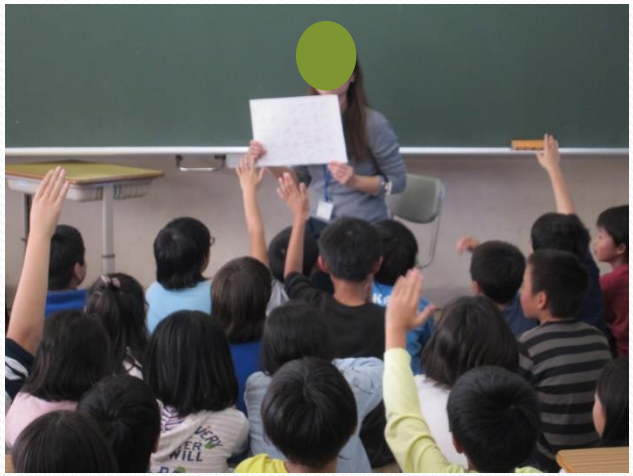
◆教材について関心を高める。
※教材への方向付け
時代背景、人物紹介、具体物の提示

4　道徳科授業における支援と実践例

【価値への方向付け・教材への方向付け】

・具体物や写真、イラストなどを示して関心を高める。





「この文字は何歳の人が書いたと思いますか」

・ハイ、字が下手だから小さい人です。

「星野富弘さんという方です」

星野さんは中学校の先生でした・・・

教材への方向付け　「文字を書く喜び」

4　道徳科授業における支援と実践例

院内学級と由貴奈さんについての説明

情報提供
イメージ化のための配慮

教材への方向付け　「電池が切れるまで」

中学校「明かりの下の燭台」
1964年東京オリンピックの情報提供
教材への方向付け

日本女子バレーボールチームが
金メダルを取った試合の動画

4　道徳科授業における支援と実践例

展開①【前段と呼ばれることもある】

教材を通して道徳的価値の理解に向けて話し合う段階

道徳的価値の意味や大切さを理解する

教材「○○」を読み（視聴し）、話し合う。

◆教材提示　教師が範読する。

◆読み終わったら教科書は閉じる。

※言葉を探すから。国語ではない。※よそ事をする。

◆範読後は、教師があらすじを説明する。

※一度で全員の児童生徒が教材の世界を理解できるようにすることが大切。

4　道徳科授業における支援と実践例

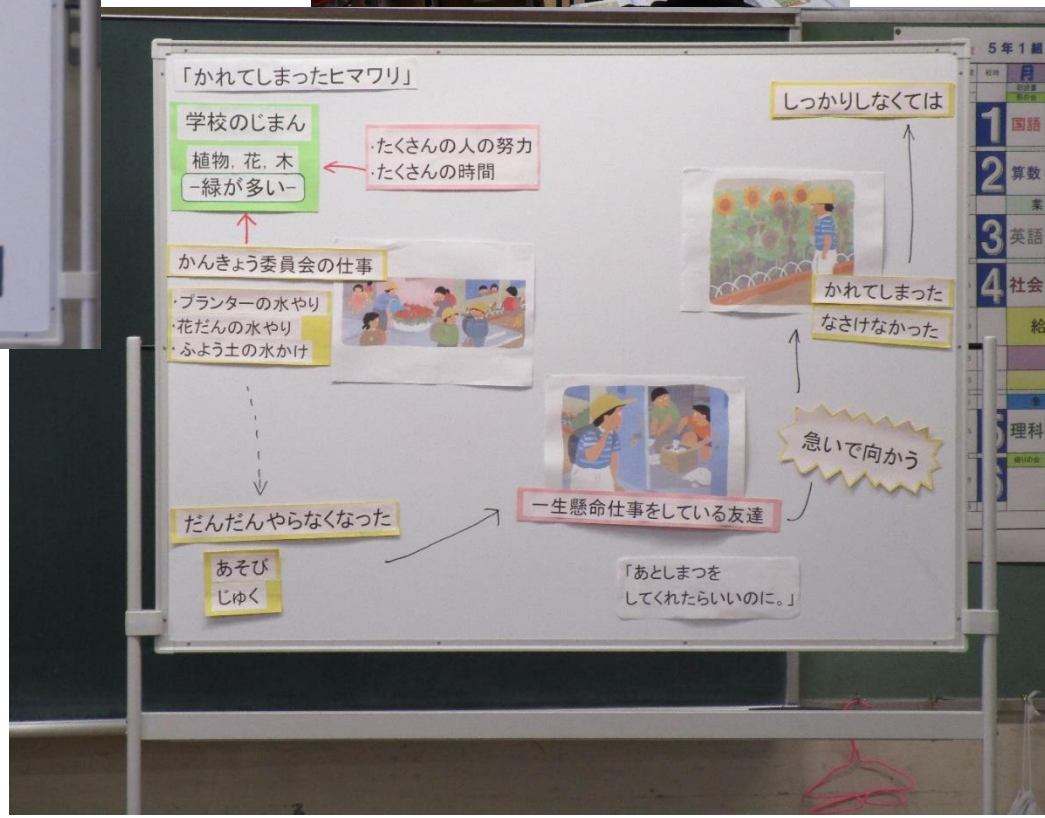
【教材提示】

※教材を読むことに対して集中力が続かない場合が多い。

・場面絵、ＩＣＴでの提示などにより可視化する。

・教材提示後は、場面絵などを再活用してあらすじを確認し、教材の内容を再度押さえていく。

きいろいベンチ
やっとはれた
よい天気
「まあまあ、こんなにどろだらけのベンチにすわって、スカートがよごれてしまったわ。」
たかし
てつお
「ひくいところからじゃよくとばないよ」
「あのベンチの上からとばそうよ」
二人は、はっとして
かおを見あわせました


「かれてしまったヒマワリ」
学校のじまん
植物，花，木
−緑が多い−
・たくさんの人の努力
・たくさんの時間
しっかりしなくては
かんきょう委員会の仕事
・プランターの水やり
・花だんの水やり
・ふよう土の水かけ
かれてしまった
なさけなかった
急いで向かう
一生懸命仕事をしている友達
だんだんやらなくなった
あそび
じゅく
「あとしまつをしてくれたらいいのに。」
5年1組
国語
算数
英語
社会
理科

あらすじを可視化する

4　道徳科授業における支援と実践例

【指示や発問】

・指示や発問は短い言葉で簡潔に伝える。

・キーワードを板書するなどして可視化する。

【話合い】

・ルールに従って発言する態勢を整える。

赤玉

グッズを渡された人が発表する。

ぬいぐるみ

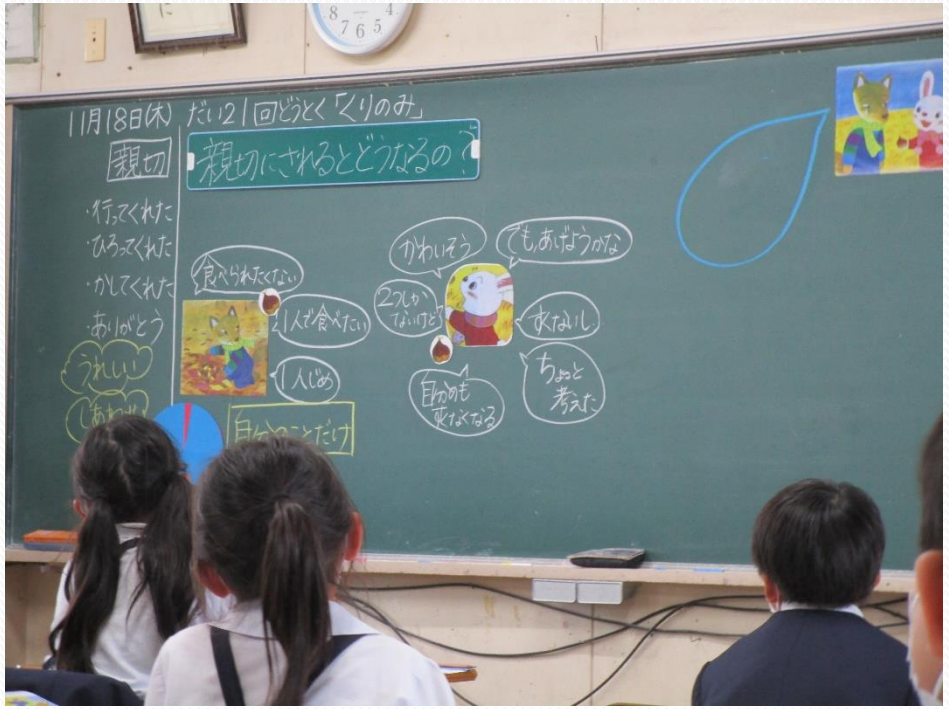
4　道徳科授業における支援と実践例

【人物の心情把握・・当該の子供に対して】

・場面絵を縮小したものを机上に置き、集中できるようにする。
・場面絵の人物を特定する。※マーク付け、余分な画面を隠す。
・人物の絵に吹き出しを付ける。
・役割演技を取り入れ、臨場感を出し、状況を可視化する。
・心情を表す文を示し、選択を促す。
・ワークシートやタブレットに数種類の顔マーク（喜び、悲しみ、怒り、迷い、など）を用意し、選択を促す。

4　道徳科授業における支援と実践例

主人公を焦点化する



ふきだしを付ける

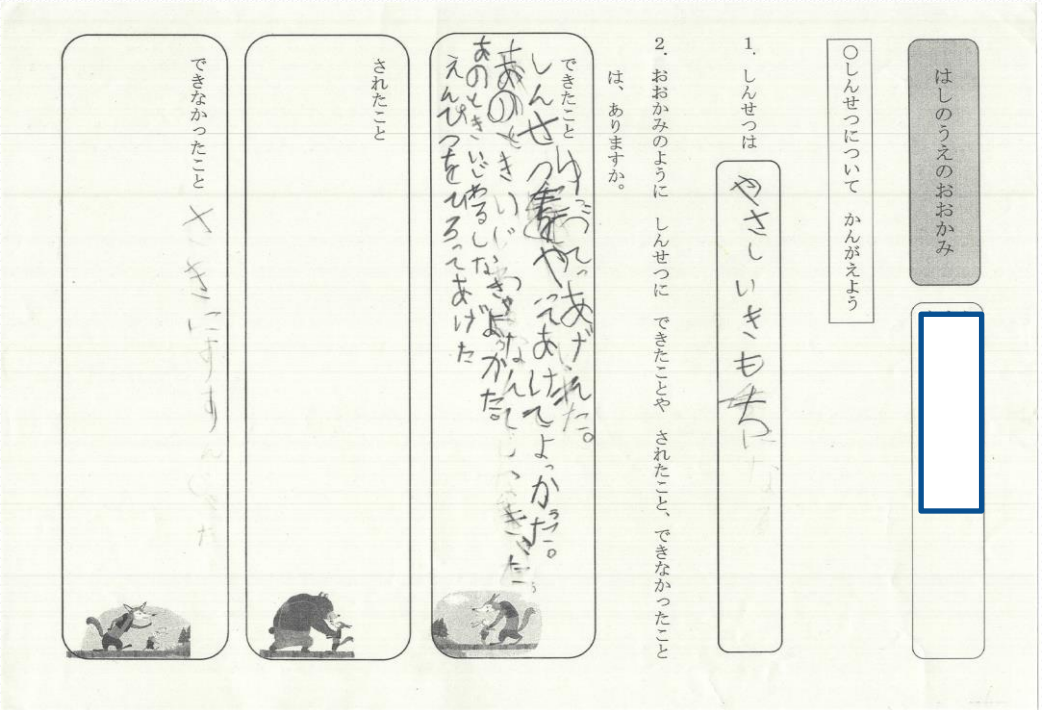
4　道徳科授業における支援と実践例

【ワークシート】

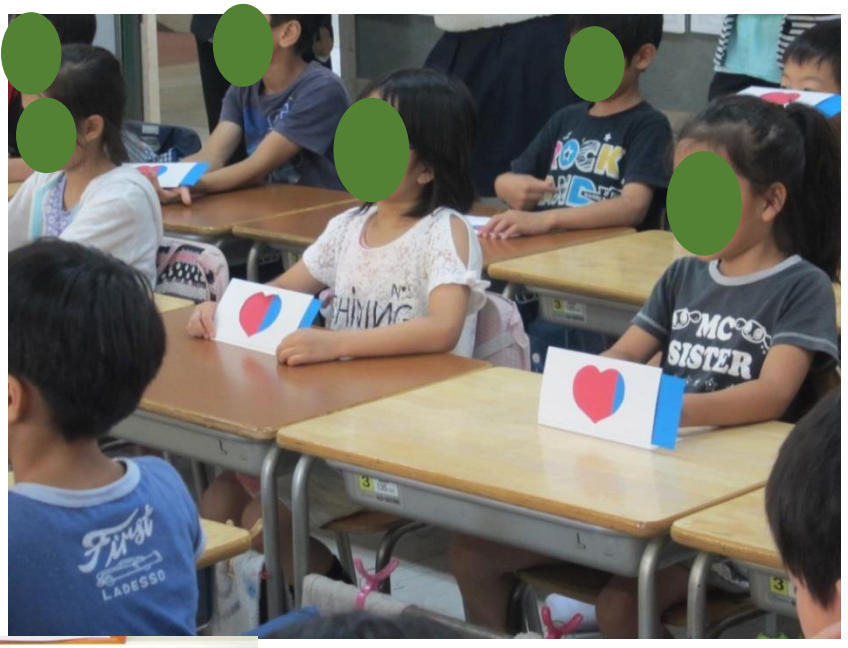
※統一したワークシートにせず、個別化を図る。

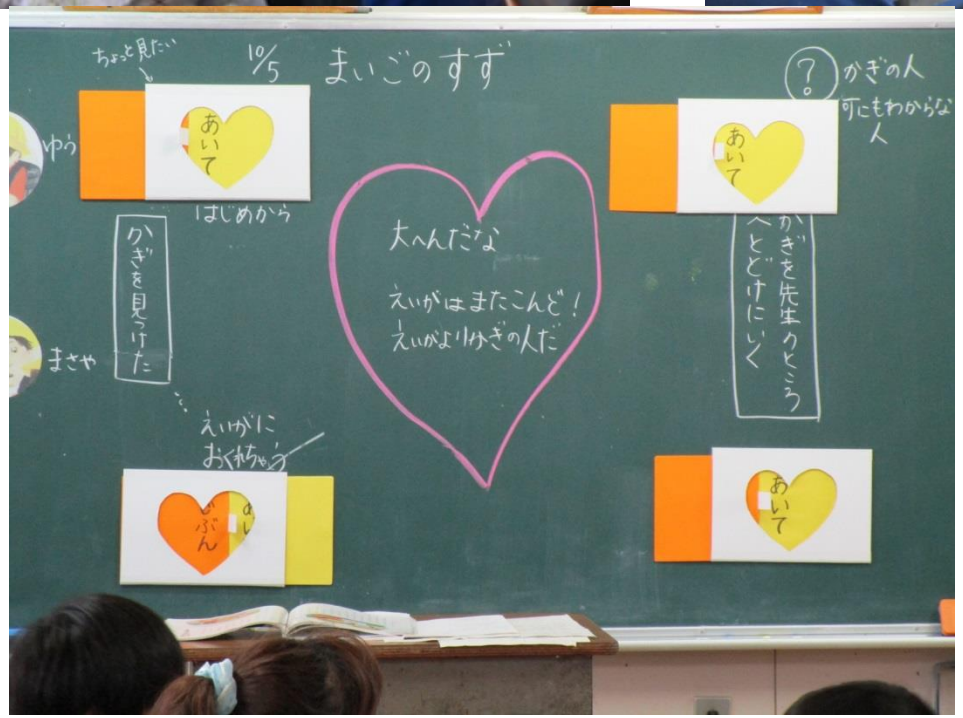
・罫線だけでなくマス目を付けることも考慮する。

※子供によっては書くことにこだわらず、発表を重視する。



発達障害の子供にとっては書きづらいワークシート





心情グラフ
心情メーター

人物の葛藤や心情
可視化

展開①【前段】の終わりに

教材を通して明らかになった 道徳的価値の意味、よさ、意義などを確かめる。

価値理解の発問

価値についての「深い学び」

価値理解を明確に行う

「主人公に大切なことを教えてあげよう。」

「○○とはどういうものだろう。」

「なぜ、○○は大切なのだろう。」

「この話が伝える大切なことは何だろう。」　など

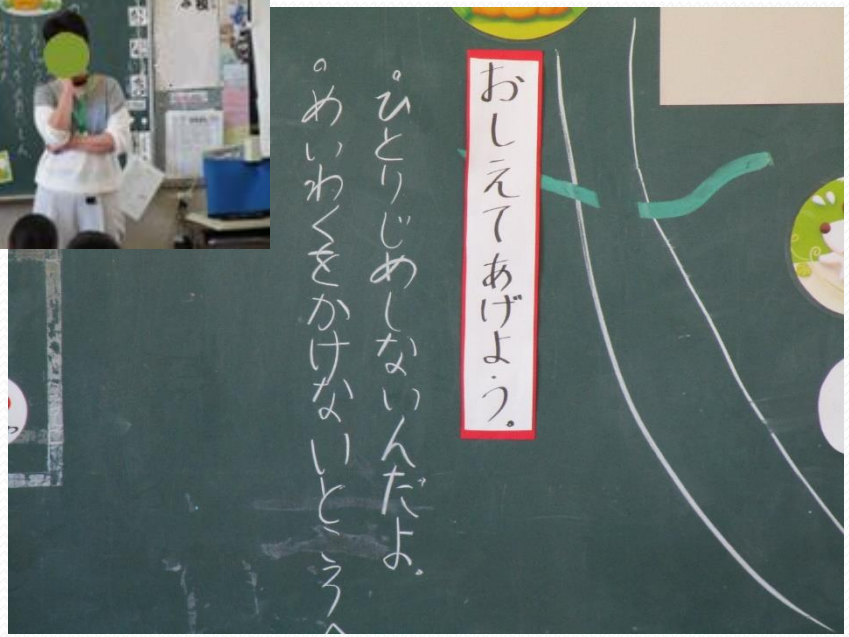
4　道徳科授業における支援と実践例

【価値理解を図る場面・・当該の子供に対して】

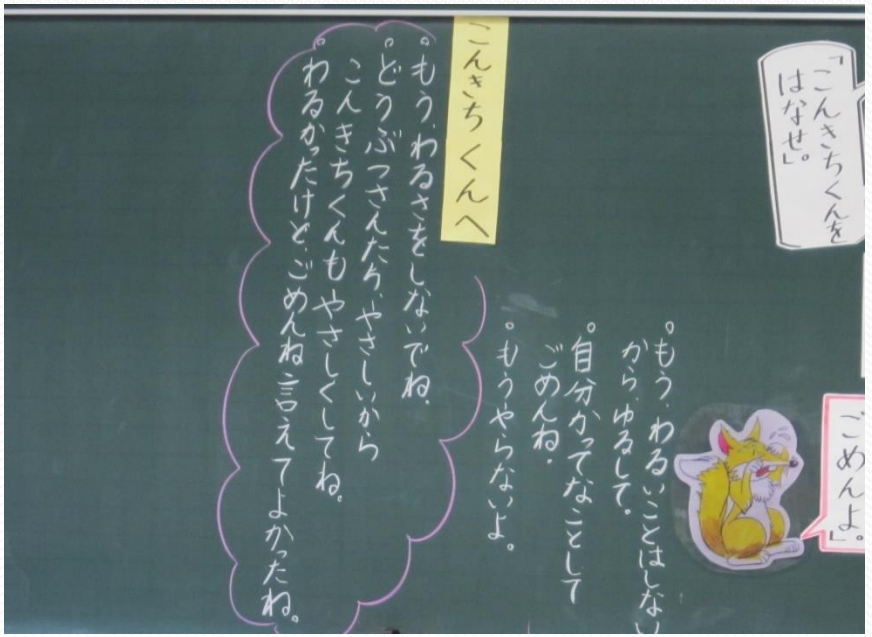
・道徳的価値の意義やよさを話し合うことが難しいときは、「主人公に大切なことを教えてあげよう。」などの発問に替える。

・教師がそばに行き、聞き取りをすることで考えたことを文にするように促す。※必要に応じて代筆する。

※子供の反応は、教師から他の子供たちに紹介する。



節度・節制



友情・信頼

展開②【後段と呼ばれることもある】

教材を通して理解した道徳的価値に基づいて
自己を見つめる段階

これまでの自分の状況を見つめ、課題を培う

◆道徳科で最も重要な段階

自分についての「深い学び」

「これまでの話合いを通して、○○が大切であることが分かりました。では、そのことについて、これまでの自分はどのようであったかを振り返ってみましょう。」

※ありのままの自分を語ることで新たな生き直しを始める。

⇒ カウンセリングと同じ

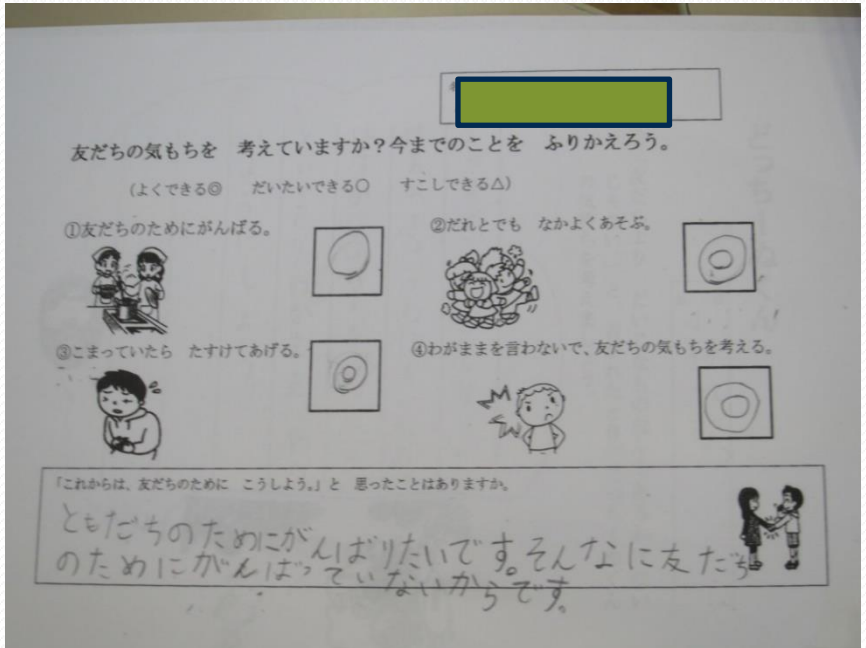
4　道徳科授業における支援と実践例

【自己を見つめる場面・・当該の子供に対して】

・経験の想起が難しいときは、ワークシートやタブレットに関係する具体的な場面を言葉、イラスト、写真などで例を示す。
※それぞれに◎○△を記入して振り返られるようにする。

・教師がそばに行き、聞き取りをすることで思い出したことを文にするように促す。※必要に応じて代筆する。

※子供の反応は、教師から他の子供たちに紹介する。



4　道徳科授業における支援と実践例

終末　　思いをまとめたり心を温める

ウ 終末の工夫
終末は、ねらいの根底にある道徳的価値に対する思いや考えをまとめたり、道徳的価値を実現することのよさや難しさなどを確認したりして、今後の発展につなぐ段階であると言われる。
【小：解説p８２、中：解説p８１】

①教師の説話を聞く・・・先生にもこんなことが

♥教師と児童生徒が一体感を味わえる。

②自分を見つめて感想を書く。

「書かせる」ことばかりをしていないか。
「評価のために」なっていないか。

③他の方法として

ことわざ紹介、本の読み聞かせ、映像視聴 、ゲストの登場
教師からのプレゼント 、歌を歌う、詩を読む、など。

※余韻を大切にし、児童生徒の心に感動が残るようにすること。

4　道徳科授業における支援と実践例

【終末】

・説話の場合は、関係する具体物や写真など心に訴える素材を用いる。

・適時、当該の子供に視線を投げかけ、目を見て話しかけていく。

「私が小さかった時のことです・・」

「おれの息子は今、集中治療室に・・」

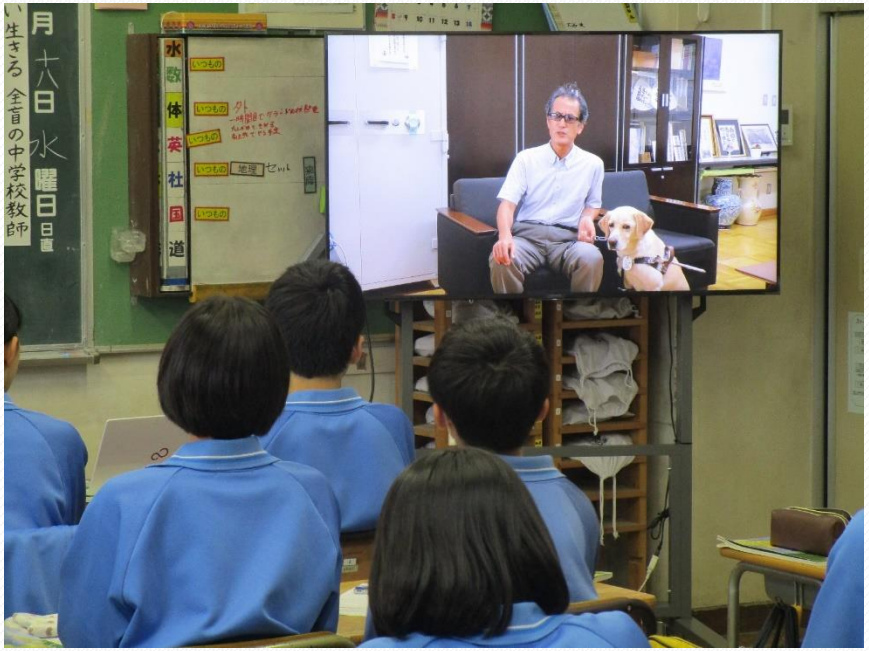
D 生命の尊さ

4　道徳科授業における支援と実践例

「友という漢字の成り立ちは・・・」

B 友情、信頼
「ケンくんのこと」

新井淑則（あらいよしのり）先生から
生徒に向けたメッセージを聴く



中学校
D よりよく生きる喜び
「いっぱい生きる」

道徳科の実践例①

■大阪市立小学校

〔第４学年〕

□主題名　不正な行い

□教材名　新次のしょうぎ　〔日本文教出版〕

□ねらい

過ちを認め謝ることで明るい気持ちになることに気付くことを通して正直であることの意義を理解し、自らの生活で過ちがあった場合はそれと向き合おうとする道徳的心情を養う。

4　道徳科授業における支援と実践例

限局性学習症（学習障害）の児童（指導案の実態より）

４年生の男子。学習においてはひらがなを読むことはできるが、漢字を覚えることが難しく、文章を読む場合は漢字を間違って読んだり、飛ばしたりすることが多い。一人で教科書、プリントなどの文章を読むときには、手遊びをしたりよそ見をしたりする。 周りの友達に話しかけるなどして、指導者や友達の話を聞けないこともある。

また、自分の考えや思いを書いて表現することにも抵抗がある。漢字を使うことを避けているだけでなく、助詞の誤りも見られ、書くのにかなりの時間を要する。途中で書くことを諦めてしまうこともある。

●学習指導過程

	学習活動（○主な発問 ◎中心発問 ■価値理解の発問 ・予想される反応）	・指導上の留意点 ☆評価の視点	◆A児への支援 （合理的配慮）
導入	1．ゲームの楽しさについて話し合う。 ○ティーベースボール・ドッジボールなどのゲームが楽しいのはどんな時でしょう。 ・以前よりもよい得点が出せたとき。 ・勝負に勝ったとき。 ・接戦でいいゲームになったとき。 ・ゲームの内容がよかったとき。	・ゲームにはさまざまな楽しさがあるが，やはり勝ちたいという気持ちがあることを押さえる。	◆事前に教材文の漢字にふり仮名を付けたり，会話文の個所に登場人物の名前とその時の表情絵を貼ったりしておく。
展	2．教材「新次のしょうぎ」を読んで話し合う。	・範読の前に登場人物を説明し，話の内容をつかみやすくする。	◆教材文の文字を追えるように，読み聞かせの時に隣の席の友達が文章をなぞっているところを一緒に読むようにする。
	○新次が，将棋をするためにおかし屋まで行くときは，どんな気持ちでしょう。 ・早く，将棋がしたい。 ・おじさんに勝ってやる。 ・おじさんとするのは楽しい。	・将棋をするために，わざわざおかし屋まで行くときの新次のわくわくした気持ちを捉えさせる。	◆注意がそれないよう，発問の前に手で合図を出して指導者に注目するようにする。 ※以下の発問でも同様にする。
	○新次の心に，ふと悪魔の影がさしたときの新次の心の中を考えましょう。 ・おじさんがいない間に駒を動かしてしまおうか，いや，やめようか。 ・今こそ，勝つチャンスだ。 ・でも，ズルをしてばれたらいやだな。	・児童が悪魔の役になり，新次に不正をけしかけることで不正をしようとする人間の弱さを引き出す。（役割演技）	◆演技の役でない場合は「監督役」として，新次が他にどんな思いをもったり，台詞を言ったりするか考えながら聞くように声掛けする。

開	○佐平おじさんと将棋をしている新次は楽しくないようですが，どうしてでしょう。 ・さっきしたズルがばれていないか，気になって楽しめない。	・佐平おじさんと将棋をしながらも，自分の不正が気になり，楽しくない新次を捉えさせる。	◆他の児童には発言する時にA児の方を見て，ゆっくりはっきり語りかけるように話すよう働き掛ける。A児にも発表者の顔を見るように促す。
	◎雨の中を帰りながら，新次はどんなことを思っていたでしょう。 ・あんなことをしなければよかった。 ・楽しくなかった。 ・ずるいことをしてしまった。 ・うれしくない。 ・喜べない。 ・少しは嬉しいが心の底からは喜べない。 （補助発問）新次がズルをしたことは誰にもばれていないのだから，気にしなくてもいいのではないでしょうか。 ・自分の力で勝っていないから，うれしくない。 ・もやもやする。 ・すっきりしない。	・新次を暗い気持ちにした理由を考えさせる。 ・おかし屋へ行くときの新次の気持ちと比較させることで，より深く考えさせる。 ☆不正をして勝ったことが誰にもばれていないのに涙を流しながら家に帰る新次を通して，不正をして勝っても心から喜べない人間のよさを考えている。（発言）	◆机の角に新次の顔絵を置き、見るように促す。 ◆吹き出しの形のカードを渡し，それを手にしながら新次の気持ちを考えるようにする。 ◆カードに言葉を書いてもよいことを指示する。

価値理解の発問

	■過ちを認めて正直に話すことはどうして大切なのでしょう。 ・正々堂々とすることで自分がすっきりするから。 ・相手に嫌な思いをさせないから。 ・相手や周りの人たちから信頼されるから。	・不正を認めて正直に伝えることの意義を多様な視点から考えさせる。 ・ワークシートに書く。 ・グループで話し合う。 ☆過ちを認めて正直に話すことの意義について友達の意見を踏まえながら考えている。 （ワークシート）	◆発問にふり仮名を付けたり理解のしやすい言葉を追記したりしているワークシート（自分がよくなかったことを正直に言うとどんなよいことがあるのかな）を配付する。 ◆個別指導でA児の考えを聞き取り，一緒に整理して言葉にまとめる。それを参考にしながらワークシートに書くように促す。 ◆書くことに抵抗がある場合は、タブレットに打ち込むようにする。 ◆机間指導をしながらグループに入り，A児の考えを他の児童と共に聞くようにする。

自己理解の発問

	3．自己を見つめる。 ○自分がした過ちを認めて正直に話したこと，正直に話そうとしたけれどできなかったことはありますか。その時，どんなことを思いましたか。	・道徳的価値を自分のこととして捉えさせる。 ・ワークシートに書く。 ☆過ちを認め正直に話すことについて自分の経験を重ねて考えている。 （ワークシート） ・数人の子供に発表をさせる。	◆A児のそばに行き経験を聞き出し、一緒に簡単な言葉でまとめる。 その中から一番心に残っていることを選ばせ、ワークシートに書くように促す。 ◆書くことに抵抗がある場合は、タブレットに打ち込むようにする。
終末	4．教師の説話を聞く。	・今後の生活へ活かす方向付けをする。	◆適宜、A児を見つめて話す。

道徳科の実践例②

■神奈川県小学校

〔第２学年〕

□主題名　あいてのことを考えて

□教材名　まいごのすず　〔学研教育みらい〕

□ねらい

相手のことを考えて、親切にすることの大切さが分かり、身近な人に親切な行為をしていこうとする道徳的態度を養う。

4　道徳科授業における支援と実践例

二人の支援を要する子供（指導案の実態より）

【Ａ児】

普段の生活では、困っている子を助けたり、優しい声かけをしたりと親切な行為が友達に対してできている。しかし、自分の気持ちや考えを、思い起こしたり、考えたりすることが苦手である。

自己肯定感が低く、自分の考えに自信が持てない。

【Ｂ児】

教師の手伝いが大好きな児童で、よく学級のことに気がつき、自分から行動することができる。大人から見て、親切な行為ができる一方で、言葉遣いが荒く、児童間では勘違いをされてしまうことがある。発問の意味や意図を理解するのが苦手なので、まず教師と一緒に考え問題を理解した後、Ｂ児の考えを教師とのやり取りの中で整理することが必要である。

7 本時の展開

時間		学習活動 (○基本発問 ◎中心発問 ●価値理解を明確にする発問 ・予想される児童の反応)	◇指導上の留意点 ★評価の視点	A児	B児
導入	5分	1. 題名「まいごの○○」の「まいご」という言葉に着目して考える。 まいごとは？まいごになった時の気持ちは？まいごの人(物)を見つけたら？ ・一人ぼっち　・はぐれちゃった ・かなしい　・さみしい　・困っている ・助けてあげる　・声をかける　・届ける	◇「親切」について考える学習であることを最初に取り上げ提示し，教材の内容(ねらいとする価値)を焦点化する。 ◇題名の「迷子」という言葉から，連想する気持ちや状況を考え，全体共有することで，話の興味や理解につなげる。 ◇迷子の鈴の絵(鍵なし)を顔に見えるように描き，児童に提示する。ゆうき達のように「かわいい」「悲しそう」などの愛着を持たせる。	◇児童の考えや思いを，うなずきや表情からみとる。発言は求めない。	
展開前段	25分	2. 教材「まいごのすず」を読み，話し合う。登場人物や状況の確認をする。 ○ゆうきとまさやは，手のひらで鍵を見つめながら，どんなことを考えたのでしょうか。 【自分を優先】 ・めんどくさいな。　・そわそわ ・誰かが届けてくれる。 ・学校に戻ると，映画に遅れちゃうよ。 【相手(困っている人)を優先】 ・先生にとどけようよ。・家の鍵だと大変だね。 ・鍵を落とした人は今頃困っているはずだ。 ・落とした人のために，ぼくが届けたい。 ◎ゆうき と まさや は，どうして学校にもどったのでしょうか。 ・困っている人を助けたいと思ったから。 ・映画を見ても，楽しめないと思ったから。	◇教師が範読する。 ◇登場人物や内容が理解できるように，挿絵を用意し提示する。 ◇鈴に鍵をつけることで，落とした人の気持ちをさらに考える。 ◇ゆうきの気持ちとまさやの気持ちの違いに気づかせ，ゆうきの心の葛藤(もやもや)を全体で共有する。 ◇ゆうきと同じような経験がないか児童に投げかけ，ゆうきが考えていたこと(悩んでいたこと)を児童の経験と結びつける。 ◇ここでは，児童自身が自分ならどうするかを問うのではなく，ゆうきやまさやの気持ちを全体で考え，自分を優先した気持ちと相手を優先した気持ちに分けることで，葛藤している気持ちを整理する。 ◇まず個人で考える時間を設定した後，生活班で話し合う時間を設け，道徳的価値を多面的・多角的に考えられるようにする。		◇挿絵を掲示することで，話の流れを視覚的に確認できるようにする。
		3. 役割演技をする。親切をした人とされた人の気持ちを考える。 設定:次の日，鍵を落とした子が二人にお礼にきた。 役割:①ゆうき　②まさや　③鍵を落とした子(教師) (1)どんなことを3人が話すか，それぞれのセリフを全体で考える。 (2)①ゆうき，②まさや役を演じる。(代表児童) (例) ・　③「昨日はありがとう。」 ・①②「どういたしまして。」 ・③　「先生から映画を見に行く予定だったことを聞いたけど平気だった？」 ・②　「映画はいつでも見られるから平気だよ。家には入れたの？」 ・③　「うん。本当に助かったよ。」 ・②　「よかったね。」 ●親切な行為をした二人は，どんな気持ちになりましたか。 ・親切をして気持ちよかった。 ・親切をした方もうれしくなった。 ・届けてよかった。また，同じように困っている人を助けたい。	◇話の中にはないが，お礼の場面を設定し，役割演技をすることで，親切な行為をされた相手が具象化され，お互いの気持ちを考えやすくする。 ◇セリフ(やり取り)の内容を児童と考えることで，その言葉から気持ちを想像しやすくする。 ◇児童を代えて何回か行うことで，多くの児童に体験する機会をつくる。 ◇児童が役を演じるのは，親切にした人の方だけだが，親切にされた人を演じた教師がどんな気持ちになったか想像させ，された側の気持ちも考える。 ◇親切な行為をした人も，された人も同じように嬉しい気持ちになることをおさえる。 ★親切な行動することで，自分も相手も気持ちがよくなることについて考えている。(発言・役割演技)	◇演技者には立候補しないが，友達の演技に対する反応や表情から，本児の思いをくみとる。	◇立候補者がいない場合，B児に役を指名する。(前に出て行うことは好き。)B児の演技から他の児童に気持ちを発表してもらい，代弁してもらう。
開後段	10分	4. 自己を見つめる。 ○自分が今までにした親切な行為や，親切にされた行為はありますか。またどんな気持ちになりましたか。 【親切をした行為→♡気持ち】 ・友達が落とした色鉛筆を一緒に拾った。 ♡ありがとうって言われて嬉しかった。 【親切にされた行為→♡気持ち】 ・教室に忘れた水筒を，届けてくれた。 ♡嬉しかった。自分も次はしたい。	◇なかなか自分の経験を思い起こせない子は，生活班の友達や全体の中で，○○さんがしていたことなどを伝え合う活動を設ける。 ◇発表の時間をできるだけ多く確保し，クラスメイトの行動や，自分がした行動を全体で認め合い，その時の気持ちを共感できる場をつくる。 ★身近な人に親切にすることの良さ・大切さについて，経験を想起しながら考えている。(発言・ワークシート)	(4. ワークシート記入時) ◇自分がした行為を思い起こすことが苦手なので，生活班の友達に本児の普段の行動を教師が質問し，思い起こす助けとする。 ◇ワークシートに何を書いてよいかわからず，活動が止まってしまうので，教師が本児の考えを代弁する。それでも書けない場合は，本人から聞いて代筆したり，いくつかの選択肢から選べたりできるようにする。	◇自己を見つめる発問に対しては，本児はすぐ「ない。」と答えることが予想できるので，A児同様，友達や教師の声かけで想起する助けとする。
終末	5分	5. 教師から「ありがとうカード」を受け取り，今日の学習の感想をワークシートに書く。	◇カードには，事前に教師が一人ひとりの児童が行った親切な行為を書き，「ありがとう」の気持ちを伝えながら渡すことで，全児童が自分が親切にした時に感じた気持ちを考えられるようにする。		

子供を観察しながら範読する。

発問のとき、名前を読んで注目させる。

〔グループでの話合い〕
子供のそばに行き、一緒に話し合う。
子供の思いを代弁する。

自己理解の個所

(4. ワークシート記入時)

◇自分がした行為を思い起こすことが苦手なので，生活班の友達に本児の普段の行動を教師が質問し.思い起こす助けとする。

◇ワークシートに何を書いてよいかわからず，活動が止まってしまうので，教師が本児の考えを代弁する。それでも書けない場合は，本人から聞いて代筆したり，いくつかの選択肢から選べたりできるようにする。

◇自己を見つめる発問に対しては，本児はすぐ「ない。」と答えることが予想できるので，A 児同様，友達や教師の声かけで想起する助けとする。

4　道徳科授業における支援と実践例

自己を見つめる。

今までに親切にした行為や、親切にされた行為はありますか。どんな気持ちになりましたか。

いくつかの生活の場面を話し、一緒に振り返っていく。

道徳科の実践例③

■神奈川県小学校

〔第２学年〕

【個性の伸長】

□主題名　　自分を好きになる

□教材名　　どうしてうまくいかないのかな　〔光村図書〕

□ねらい

　家族の言葉から自分のよいところに気付く「みき」の姿を通して、自分のことが好きになるとどのような気持ちになるかを考え、自分のよさに気付き、それらを大切にしようとする道徳的態度を育てる。

4　道徳科授業における支援と実践例

子供の実態（指導案の実態より）

■ A児

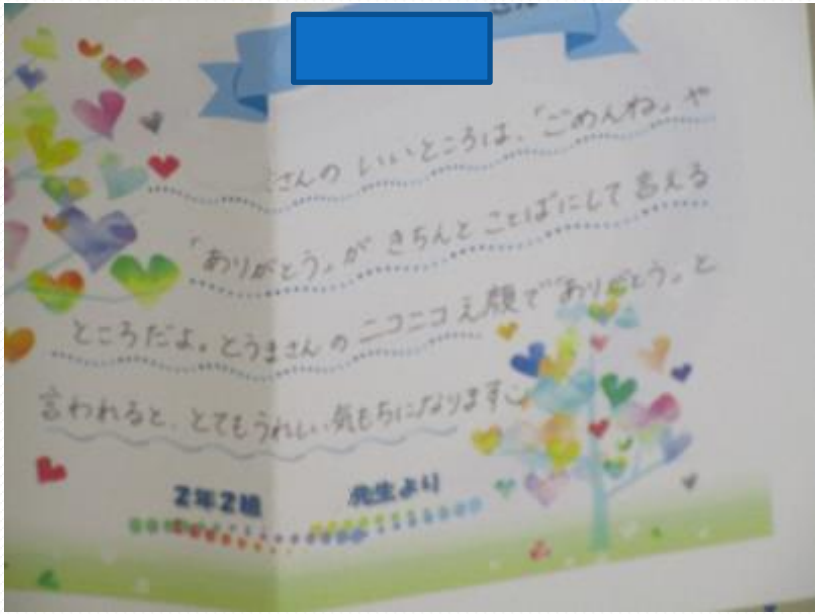
友達から発表について称賛されているが、自分のいいところは「分からない」と否定的である。友達のいいところを見つけることも苦手である。ワークシートに書く際に支援を要することが予想される。話の内容を整理し、「どう思う？」と問いながら、考えていることを言語化することで書くことができるように支援する。

	・家ぞくがほめてくれたから。 ・がんばれたから。 ・自しんがついたから。 ・このままでいいとわかったから。 価値理解の発問 自分のよいところが見つかると、どんな気もちになるか考えよう。 ・これからもがんばろうと思う。 ・いい気持ちになる。 ・うれしい気持ち。	考えを深める。 □気持ちカードを利用して、自分のこと好きになった「みき」の気持ちから、表情を選び確認する。その際に、うまくいかなかったときの気持ちと比較し、価値に迫りやすくする。 ☆自分のことを前よりも好きになった理由を様々な見方から考えている。（ワークシート、発言） A児に対する支援 考えることができても、考えをワークシートに書くことが難しいと予想される。机間指導をして、おかあさんとおじいちゃんがなぜ褒めてくれたのかを整理し、言語化することで、どう書いたらいいか明確にする。 自分のよさに気づく「みき」の姿を通して、自分の頑張りを認められるようにしたい。 ☆道徳的価値について自分なりの考えを持っている。
	4．自己の生き方について考える。 ○先生から「すてきカード」を渡します。 自己理解の発問 ○カードをもらって、どんな気持ちになりましたか。 ・いいところに気づけてうれしい。 ・もっとがんばろう。 ・おどろいた。	A児に対する支援 「すてきカード」を渡す際に、A児のいいところを褒め、自信が持てるような声をかける。 □気持ちカードを利用して、今の気持ちから、表情を選び確認する道徳的価値をおさえる。
終	5．これからの自分につなげる。	□本時を振り返り、今まで気づかなかった

4　道徳科授業における支援と実践例

Ａ児への支援

先生からの「すてきカード」



留意すること：子供の思いを尊重する

個別の支援に際しては、本人の思いを考慮することが大切です。教師がよかれと思って勝手に行い、自尊心を傷つけたり、意欲を失くしたりすることのないように配慮しましょう。

事前に、授業の予定を知らせ、「今度の道徳の学習では、○○を考えたり、自分の意見をまとめたりすることがあります。あなたにもぜひ活躍してほしいと思っています。そのために、あなたには□□や△△をしていこうと思っているのですが、どう思いますか。

また、自分にはこうしてほしいという希望があったら教えてください。」 など話し合うことが望ましい。

5　おわりに：新たな学習指導案の提案

○先ずは、一つでも二つでもできることから子供のことを想定しながら、具体的な支援を模索することを始めましょう。

○指導案で構想した支援が、実際には役立たないことは多いです。なぜなら、子供は、日によって、時間によって、異なる姿を示すからです。

○要は、教師が構想しようと努力をすることが何よりも大切です。支援を図る力を蓄えていくことが貴重なのです。

道徳科の指導案の様式は、先に示したものが今後はスタンダードになると確信しています。
※他の教科等の場合でも同じはずです。